

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等高等学校1年生
特別活動（ホームルーム活動）

目標・人権教育のねらい

- ・新しい環境に適応し、望ましい人間関係を築くために、相手の思いや気持ちを大切にしながら行動する態度を養う。
- ・エゴグラムを通して人の心の働きについて理解を深め、自分の良さを生かしながらそれを伸ばし、他者の良さも認めて尊重する意識を育てる。

実施した内容

- ・物事の捉え方によって、感じ方や人への関わり方が変わることから、良い人間関係を作るためには、どのように対応すればよいか考え、共有する。
- ・エゴグラムを作成し、自分の心の状態や5つの部分から見た行動パターンについて理解する。
- ・いまの自分を知ること、これからどこを変えていきたいか、どのような点に気をつければよいか、考える。

工夫した点

- ・学校生活での一コマを例に挙げ、各自がどのような対応をするか個人思考させ、同じ物事であっても人の感じ方はそれぞれ異なることを共有する。
- ・エゴグラムの結果を読み取り、一番高かった部分と低かった部分から、自分の良さや欠点に気づかせる。
- ・自分を成長させていくために、高い部分を伸ばしていくことや、理性的な部分を上げていくことを提案した。

他教科との
関連

- ・家庭科にて、子どもの生活と保育（心身の発達、青年期の責任）について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：自己を客観視することで、自分の良さや欠点を受け入れていくことの大切さに気づいた。
- ・価値・態度的側面：互いの違いを認め、自他の価値を尊重しようとする言動が増えた。
- ・技能的側面：個性を伸ばし、他の人と対等な関係を築いていこうとする姿勢が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等高等学校1年生
家庭基礎

目標・人権教育のねらい

- ・男女共同参画社会の実現に向けた、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。
- ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するために、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たすことの重要性について考える。

実施した内容

- ・家族や家庭生活について、民法等で定められている内容を手がかりに学習し、性別役割分業意識が根強く残っていることを理解する。
- ・選択的夫婦別姓制度の法制化について自分の考えをまとめ、世の中の動きへの理解を深めて、これからどのような社会を実現すればよいか考える。

工夫した点

- ・妻が働き、夫が専業主夫の家庭を画いたテレビドラマ「百年の恋」を視聴させ、性別役割分業意識や、パートナーへの思いやりと協力、子どもを育てながら働くこと等、様々なポイントを示して考えさせた。
- ・婚姻届の様式を用いて、家族や家庭生活に関する法律や制度について理解を深めた。

他教科との
関連

- ・保健体育科にて、性意識と性行動の選択について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：民法や性別役割分業意識等、現在の世の中の動きについての理解が進んだ。
- ・価値・態度的側面：パートナーを思いやり、協力して生活していこうとする態度が見られた。
- ・技能的側面：将来の自分の仕事や家庭等について、イメージしようとする言動が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等高等学校1年生
家庭基礎

目標・人権教育のねらい

- ・ 高齢期の心身の特徴や高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解する。
- ・ 生活支援に関する基礎的な技能について理解し、高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考える。
- ・ よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉における課題解決に主体的に取り組んで地域社会に参画し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図る態度や実践力を養う。

実施した内容

- ・ 少子化・高齢化の進行による超高齢社会の課題について理解する。
- ・ ライフステージとしての高齢期を考え、老化と成熟、健康と自立という側面から、高齢者への支援の在り方について考える。

工夫した点

- ・ 「年齢あてクイズ」や「どうする？お年寄りのサポート」動画の視聴等、超高齢社会の現状について関心を持つように工夫した。
- ・ インターネットを活用し、介護総合情報サイトやNHK高校講座の内容を参考にしながら、老化や介助などの疑似体験を行った。
- ・ 高知県の人口、高齢化率に関する資料から、高齢化率の高い市町村、低い市町村のベスト5を調べさせ、超高齢社会についての実感を持たせた。

他教科との
関連

- ・ 保健体育科にて、中高年期と健康について学習した。
- ・ 特別活動（ホームルーム活動）にて、装具を用いて高齢者体験を行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：高齢期の心身の特徴や高齢者の尊厳と自立生活への支援等についての理解が進んだ。
- ・ 価値・態度的側面：自分の高齢期をよりよく生きるために気をつけることを考えることができた。
- ・ 技能的側面：社会の一員である高校生としてできる支援を実践しようとしている。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

高等学校1年生
保健体育

目標・人権教育のねらい

- ・ 主な精神疾患と発病する要因について学習し、精神障害のある人への理解を深める。
- ・ 現代社会における精神保健の課題が、自分にどのように影響するのか考え、差別につながらないためにどのようなことが必要か考える。

実施した内容

- ・ 精神疾患の種類（うつ病や統合失調症など）と発病する4要因（生物的要因、心理的要因、身体的要因、社会的要因）について理解する。
- ・ 中高生の発症率は高い傾向にあり、現代の急激な生活様式の変化とともに、精神保健の今日的課題であることを理解する。

工夫した点

- ・ 発病につながりやすい考え方や行動、生活習慣や人間関係など、具体的な事例を取り上げ、自分自身の状態と比較させた。
- ・ インターネットへのアクセスが日常的な生活は、様々な依存症やうつ病、自死への影響が大きいことをイメージさせた。
- ・ 身近な問題として考えることができるよう、若者で発病しやすい特徴があることを示した。

他教科との
関連

- ・ 特別活動（ホームルーム活動）にて、講師による講話を通して発達障害について学んだ。

事業成果

- ・ 知識的側面：精神疾患の特徴や、誰でもかかる可能性があることを理解した。
- ・ 価値・態度的側面：発病を防ぐための考え方や生活習慣、好ましい人間関係を作っていこうとする意欲がみられた。
- ・ 技能的側面：自分の行動改善や、人間関係における自身の役割について考えようとしている。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

高等学校1年生・地理総合
高等学校2年生・日本史A

目標・人権教育のねらい

- ・日本の歴史の中で作られた身分制度に基づく差別によって、近年でも部落差別は依然として存在しており、職業選択や結婚など様々な形で残っていることを理解する。
- ・同和問題の解決に向けた取組について理解を深め、国が果たす役割や、自分たちができることについて考える。

実施した内容

- ・封建制度の中で差別を受けてきた被差別部落の人々が、身分制度が解体されて以降も、根強い差別に苦しんだことを理解する。
- ・全国水平社の立ち上げをはじめ、差別解消に向けた活動や、国の施策について理解する。
- ・差別のない社会を実現するために必要なことについて考える。

工夫した点

- ・ICT機器を活用して、関連するニュース記事を閲覧し、実際の差別の状況について理解を深めた。
- ・差別のない社会を実現するためにどのようなことが必要か、自分の意見をまとめ、全体で共有した。

他教科との
関連

- ・特別活動（ホームルーム活動）にて、識字学級や就職差別について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：根強く残る部落差別の実態を知り、その不合理に気づくことができた。
- ・価値・態度的側面：他者への思いやりや気配りの意識が高まった。
- ・技能的側面：仲間との協力意識が高まり、何事にも積極的に取り組む態度が見られる。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等高等学校2年生・地理A
高等学校3年生・世界史A

目標・人権教育のねらい

- ・国際化の進展や、国内産業への労働力として、外国人居住者が増加している背景について、理解する。
- ・国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化を認め合い、対等な関係を築いていくための理解を深める。

実施した内容

- ・異国の文化を知り、言語や習慣等の違いを認めて尊重し、肯定的に受け入れる。
- ・人々の交流が活発になる一方で、外国人に対する偏見や差別等が生じている問題について理解する。
- ・外国人との共存や、差別のない社会を実現させるためには何が必要か、多面的に考察する。

工夫した点

- ・各国の違いや共通性を捉えやすくするために、ICT機器を活用して地図を共有し、それぞれの特徴を確認しながら説明を行った。
- ・グループワークを通して、多角的な視点で考えを共有した。
- ・インターンシップなどで自分たちに関わりのある企業においても、海外との取り引きや海外に拠点を置く企業、外国人労働者の雇用の実態があることなどの話題を取り上げ、関心を持たせた。

他教科との
関連

- ・英語科にて、異文化理解について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：すべての文化は優劣で比べるものではなく対等であることに気づくことができた。
- ・価値・態度的側面：異文化を学ぶことで、日本の文化の良さに改めて気づくことができた。
- ・技能的側面：異なる文化を尊重することで生きる力が身につき、何事にも積極性がでてきた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

H I V 感染者等

対象学年・
取り扱った教科等高等学校1年生
保健体育

目標・人権教育のねらい

- ・ 性感染症やH I V 感染症について、感染の仕組みや予防法に対する正しい知識を持ち、偏見や差別を取り除く意識を育む。
- ・ 性感染症やH I V 感染症について、個人や社会でできる対策を理解し、課題解決に向けて行動する態度を養う。

実施した内容

- ・ 性感染症やH I V 感染症の種類と感染する仕組み（性的接触、血液感染、母子感染）について理解を深める。
- ・ 性感染症やH I V 感染症の予防について、各自ができる対策を考え、身近な問題として捉える。

工夫した点

- ・ 性的接触による感染は、対象や回数に関わらず、誰でも感染する可能性があることを理解させる。
- ・ 自覚症状がないことが多いため、感染拡大が発生しやすいことを実例を基に考えさせる。
- ・ 具体的な予防行動（性的接触をしない、コンドームを使用する、H I V 抗体検査を利用する）を示して、自分に適した予防行動を考えさせる。

他教科との
関連

- ・ 特別活動（ホームルーム活動）にて、薬物乱用防止講話を通して健康の保持について学んだ。

事業成果

- ・ 知識的側面：H I V 感染を含む性感染症は、青少年期から注意しておく必要があることへの理解を深めた。
- ・ 価値・態度的側面：感染者への先入観が少なくなり、共に生活していこうという意欲が高まった。
- ・ 技能的側面：予防行動や感染者への接し方について、自分ができることを考える姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

高等学校3年生
特別活動（ホームルーム活動）

目標・人権教育のねらい

- ・ SNS の危険性について確認し、利用者としての責任や大切にしたいことを考える。
- ・ インターネット上でのメッセージや情報のやり取りから、陰湿ないじめが生まれている現状を知り、人権侵害となる状況を把握して、適切な利用の仕方を理解する。

実施した内容

- ・ 有害サイトへのアクセスによって、トラブルや犯罪に巻き込まれた実例ををもち、被害者にも加害者にもならないために必要なことを理解する。
- ・ 匿名性の高いインターネット上で、互いの立場や気持ちを尊重して、他人に迷惑をかけない活用方法について考える。

工夫した点

- ・ 地元の警察署から講師を招き、サイバー犯罪の実情について講話をしていただいた。
- ・ 社会で問題になった出来事や、生徒が身近に感じられる話題を取り上げ、自分事として考えられるよう工夫した。
- ・ 感想文を書く時間を設定して各自で振り返りを行い、安心して利用するために心がけることや、自他の考え方には違いがあることに気づかせる。

他教科との
関連

- ・ 工業科にて、情報技術に関連する情報モラルについて学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面： SNS 等を誰もが安心して利用できるために必要なことに気づいていた。
- ・ 価値・態度的側面： 他者への思いやりや、仲間意識が高まった。
- ・ 技能的側面： 適切な利用を実践して SNS 等による問題発生を抑止できている。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

高知県立高知東工業高等学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等高等学校1年生
特別活動（ホームルーム活動）

目標・人権教育のねらい

- ・身体性の性（生物学的性）と心の性（性自認）について理解し、自分らしく生きる権利について考える。
- ・無意識のうちに持っている「男らしさ」「女らしさ」という固定観念に気づき、差別や偏見を生まない社会について理解を深める。

実施した内容

- ・多様なセクシュアリティについて、スクールカウンセラーが講師となり講話を行った。
- ・LGBTQに対する正しい知識をもち、当事者の心情に寄り添った適切な関わりについて考える。
- ・世界には同性婚が認められている国や地域があり、日本国内ではパートナーシップ制度を導入している自治体もあるが、住む場所によって対応が異なる不公平さがある。

工夫した点

- ・性的少数者が占める割合は、血液型ではA B型と同程度であることを挙げ、理解を深めた。
- ・スポーツや職業、カップルの構成などイメージしやすい例を用いて、自分の思い込みに気づかせ、心の性を理解されないことに悩み、生きづらさを感じる人がいることを共有した。
- ・パートナーとの関係について実例を挙げ、より身近に感じられるよう工夫した。

他教科との
関連

- ・家庭科にて、現代の多様化したライフスタイルの選択と尊重について学んだ。

事業成果

- ・知識的側面：自分自身や社会の中にある思い込みや先入観に気づき、誰もが自分らしく生きることの大切さを学んだ。
- ・価値・態度的側面：多様な生き方や価値観を認め、違いを受容して自他を尊重することへの意欲が高まった。
- ・技能的側面：より良い人間関係を築くために、自分ができることについて考え、行動に移そうとする姿勢が見られた。